

タイトル：『汐製菓会社の新作102
どら焼き2』

第一幕：汐製菓の挑戦（約35分）

シーン：汐製菓社内の朝の風景

汐製菓のオフィス。社員たちが忙しく働いている。汐が興奮しながらノートを抱えてやって来る。

汐（元気よく、社員たちに声をかける）：

「みんな、集まってくれ！今日はみんなの力を借りたいんだ！」

社員A（少し困った顔で）：

「社長、また新しいアイデアですか？大丈夫ですか、また突飛な企画じゃないでしょうね？」

汐（無邪気に笑いながら）：

「もちろん！今回は、どら焼きだよ！」

社員B（目を丸くして）：

「どら焼き？それって、普通の和菓子のどら焼きですか？」

汐（自信満々に）：

「普通のどら焼きなんて面白くない！今回は『抹茶』と『ほうじ茶』のダブルで攻めるんだ！」

社員C（驚きながら）：

「抹茶とほうじ茶を使う…まさかそれをどら焼きに？でも、それってどうやってうまく組み合わせるんですか？」

汐（豪快に）：

「それが面白いんだよ！抹茶の深い苦味と、ほうじ茶の香ばしさを融合させるんだ！新しい味を生み出せるぞ！」

塩田（冷静に）…

「社長、確かに面白いアイデアかもしれませんが、味のバランスが難しそうですね…。抹茶とほうじ茶、両方強い味ですし。」

汐（楽しそうに）…

「だからこそ、やる価値があるんだよ！僕らが作れば、どんな組み合わせでも面白くなるんだ！」

社員A（不安げに）…

「でも、抹茶の苦味が強すぎたら子供が食べられないし、ほうじ茶が強すぎたら渋すぎて受け入れられないのでは…？」

汐（満面の笑みで）…

「それが面白いんだ！予測を裏切る味が出るに決まってる！挑戦しよう！」

シーン…：試作・準備の風景

工場のキッチン。汐と塩田が試作を進めている。

汐（勢いよく材料を手に取りながら）：

「まず、抹茶をふんだんに使って！あの苦味こそが魅力だ！」

塩田（慎重に計量しながら）：

「でも、抹茶を使いすぎると苦味が出すぎますよ。バランスを考えて少し控えめに…」

汐（手を止めて）：

「塩田、それが普通なんだよ！でも、今回のどら焼きには、ちよつとだけ常識をぶっ壊さないと…」

塩田（微笑みながら）：

「わかります。でも、やっぱり失敗したらどうしよう…っ？」

汐（興奮気味に）…

「失敗してもいいじゃないか！新しいことに挑戦してこそ、最高のものが生まれるんだよ！」

塩田（試作を一口食べてみる）…

「うーん、抹茶の苦味はいいけど、ほうじ茶がうまく馴染んでいない気がします。」

汐（元氣よく）…

「それはいい証拠だ！もう少し調整すれば、もっとよくなるはず！」

シーン③：試食会前夜、塩田の不安

試食会が迫る夜、塩田は一人で悩んでいる。

塩田（鏡を見ながら自分に言い聞かせるように）…

「大丈夫、塩田。社長のアイデアはきっと成功する…きっと、あの発想が…」

突然、汐が背後から現れる。

汐（ニヤニヤしながら）…

「塩田、そんなに悩まないで！成功するのは間違いないんだから！」

塩田（驚きながら）…

「社長、こんな夜中に…？」

汐（得意げに）…

「おお、塩田！ちょうどいいところに来たな。さつき試作を見たけど、絶対にうまくいくと確信してる！」

塩田（不安げに）…

「それは…社長、あれって本当にうまくいくのでしょうか？」

汐（真剣に）…

「塩田、信じて！きっとこれは大ヒットする！」

塩田（しばらく黙って考え込む）：

「…わかりました。でも、万が一うまくいかなかった時は…？」

汐（豪快に笑いながら）：

「うまくいかないなんてあり得ない！」

第二幕：バイヤーたちとの対立と説得
（約45分）

シーン④：試食会

豪華な試食会場。世界中から集まったバイヤ

ーたちが集まっている。

ジャン（フランス・バイヤー）（試食し、困惑した表情で）：

「これは…どう評価すればいいんだ？抹茶の味が強烈で、ほうじ茶がまるで煙のようだ。」

マイク（アメリカ・バイヤー）（驚きながら）：

「何だこれ、抹茶の味に圧倒される。でも、悪くはないけど…」

リー（中国・バイヤー）（冷静に）：

「抹茶が苦すぎるし、ほうじ茶も香りが強すぎる…本当にこれを広めようと思っているのか？」

汐（胸を張って）：

「抹茶の苦味があるからこそ、これは深い味わいなんです！ほうじ茶の香りが濃いからこそ、甘さが引き立つ！」

塩田（小声で）：

「社長、言っていることは分かりますが、反応があまりにも…」

汐（塩田に微笑みかけ）：

「塩田、心配しないで。ここからが本番だ。」

ジャン（懐疑的に）：

「なるほど、つまりこれは日本の文化的な深さを反映させているわけか？」

汐（熱心に）：

「その通りです！このどら焼きは、ただのお菓子じゃなく、日本の歴史と文化がギュッと詰まっているんです！」

マイク（少し興味を示しながら）：

「うーん、確かに面白い。日本の“奥ゆかしさ”が感じられる味わいだな。」

リー（考え込む）：

「日本の深い味わい…それなら、試してみる価値がありそうだ。」

塩田（安心し、微笑みながら）：

「社長、説得しましたね…！」

シーン⑨：メディアと社会的反響

メディアが大々的に取り上げ、SNSが賑わい、どら焼きが爆発的な人気を得る。

ニュースキャスター（テレビ画面で興奮しながら）：

「『抹茶派』と『ほうじ茶派』の激闘が始まりました！新たなどら焼きブームが社会に波紋を広げている！」

汐（得意げに）：

「さすがだろ、塩田！これが『面白きことも無き世を面白く』ってやつさ！」

塩田（驚きながら）：

「こんなに人気になるなんて…！でも、これっでもはや社会問題になりつつありますよね…」

汐（にやりと笑いながら）：

「社会問題？いいんだよ、それが面白いんだから…！」

終幕：派閥争いと爆発的な人気（約20分）

ナレーション（伝えられるニュースの中で）：

「そして、『抹茶派』と『ほうじ茶派』の激闘がさらにヒートアップ！一部では、街中がどら焼きを巡って争う事態にまで発展している！」

塩田（困った顔で）：

「どうしてこうなったんですか、社長！」

汐（楽しみに）：

「これぞ、世の中を面白くする力だ！大ヒットを超えて、大騒ぎにしてやった！」

END